堺市立福泉東小学校 校長 武田 修治

中学校区におけるめざす子ども像 人から信頼され、何事も徹底してやりぬくたくましい子

令和6年度 重点目標

『よく考える子の育成』 ~創造の楽しさを味わう~

確かな学びの現状

トに自分の考えやふりかえりを書かせたり、本校独自の漢字検定や計算検定に粘り強く取り組んだりすることにより、学びに向かう姿勢が見られるようになった。 | 得意なところを知っている。」が85%、「自分でやるときめたことは最後までがんばるようにしている」が87%で肯定的な回答をする児童が多い。 を正しく読み解いたり、図や資料などから必要な情報を選択したりするカ)および、新しいものを自ら作ることを楽しむ力の育成が必要である。

豊かな心・健やかな体の現状

本校では、「積極的に学習に向かうカ」や「粘り強く取組むカ」など、『学び続けることができる児童』の育成をめざし、さまざまな取組を行ってきた。成果としてノー ・全学年でのたてわり活動をとおして、仲間づくりを行ってきている。異学年交流を行う中で、上級生が下級生にやさしく接する姿が見られるなど、児童のつながりが深まっている。また児童アンケートの結果から、「自分のよいところや 一方、学んだことを生かして、経験と結び付けて新たな問題を自力解決することには課題が見られる。自力で「できた」喜びを体感するには、『読み解く力』(文章 ・様々な体育の行事を通して、運動習慣を身につけさせ、体力向上の取り組みを行っている。また、朝ご飯を毎朝食べていない児童が約28%、1日に2回歯みがきをしていない児童は約28%で課題が見られる。また寝る時間が遅い(22 時以降)の児童は約29%である。食育指導、眠育指導をとおして改善していきたい。

中	具体的な取組	判断基準	□ / 二 大 注 □ □ / □		<u> </u>	達成状況(年度末)	
具体目標	(●重点とする取組 ★中学校区での取組)	(評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認	自己評価	学校関係者評価
学力 『よく考える子』の育成をめざし、学向 ぶ姿勢と基礎学力を高める。	●すべての教育活動を通して、『学ぶ姿勢』(「学 んだことを生かす」「主体性」)を育む。	・「習ったことを使って問題に取り組めた」、「できてもできなくても自分なりに考えることができた」で肯定評価80%以上	学校アンケート	年度末	6年生の学力調査において「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」で肯定評価が91%(設問30番)だった。「堺市児童生徒調査(3~6年)」など今後もアンケート結果に基づいて実態を把握していく。	学校アンケート「問題の解決に向けていろいろな方法を自分で工夫し考えながら取り組んでいる」で肯定評価が93%、「授業の内容を理解しようとがんばっている」で肯定評価が95%であった。『学び続けることができる児童』の育成をめざしてきた結果として、どの学年においても、課題に向き合い、解決しようとする姿が見られた。今後もこのような児童の姿勢が続くような指導を続けていく。	◆昔に比べて、子どもが遊ぶ場所や集まる機会(こども会など)がなくなってきている。最近、スケボーが流行っているようだが、十分に遊べる場所がないので、結果的に近所迷惑になっている様子も見受けられる。
	●学校独自の「漢字検定」、「計算検定」を実施 し、事前事後の指導を行 う 。	・漢字検定の合格率90%以上 ・計算検定の合格率80%以上	自作テスト 学校アンケート	年度末	1学期の漢字検定は2年から6年までの検定であったが練習に励み、粘り強く指導した結果、98%が合格点を取った。文字を丁寧に書き、自ら進んで学習しようとする児童も増え、学校独自の取り組みの成果が表れている。	「漢字・計算検定に向けて、一生懸命に練習をがんばっている」では肯定評価が92%であったが3学期の漢字検定合格者85%、計算検定合格者79%だった。合格者率が減少しているが児童のモチベーションは高い。来年度から漢字・計算検定の実施時期や回数について精査して行い基礎学力の定着を図り、合格率をあげる。	として、どのように捉えているのか。 →子どもたちに必要な学力とは何かということ を、学校としても改めて捉え直そうとしていると
	●読書に親しむ態度を育てる。 朝の読書タイムを充実させたり、読書月間を設けたりする。積極的に学校図書館を活用したり学校 図書館以外の場所でも書籍に気軽に触れられる 工夫をして、読書への意欲向上を図る。	・「本を読むことが好き」「学校やおうちで進んで読書に取り組んでいる」で肯定評価80%以上 ・昨年度より貸出冊数を増やす	学校アンケート 学校図書の貸出冊数	年度末	「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか」で1~10冊の家庭が65%(設問23番)であった。「堺市児童生徒調査(3~6年)」など今後もアンケート結果に基づいて実態を把握していく。	△ 介、図書委員会による読書ビンゴで本に触れる機会を増やすことができた。高学年になるにつれ、図書や読書の時間をとることが難しくなる傾向があるため、アンケートでは肯定評価が低く	◆子どものいじめに対する認識において、学校 アンケートでは100%ではなかったが、本来は 100%であるべきものだと思う。 →もちろん100%であるべき。近年はいじめの拡 大解釈により、認知件数が増えているのもあ り、100%にならないのが現状。今回の学校アン
授 事前検討重視型校内研修を進め、 全教員の授業力を高める。	●各教科の学習において『読み解く力』(「正しく 読める」「理解できる」「想像できる」「必要な情報 をぬきだすことができる」)に重点を置き、授業づく りと評価を行う。	・「『読み解く力』を意識した授業づくりをしている」で肯定評価90%以上	教職員アンケート	年度末	『読み解く力』をテーマとし、事前検討会・模 擬授業・研究授業(各3回)を行なった。今後 も、児童の学びにどのような指導が効果的で あるかを考えていく。	「読み解く力を意識した授業づくりをしている」で肯定評価が 〇 100%であった。今後も「読み解く力」を意識し、児童の学力の定 着をめざし、授業力向上につながる研修を続けていく。	ケートでも、個別に聞き取りしたり見取りをした して、子どもの様子を注視したりしている。
	●外国語科の授業力向上をめざし、3~6学年の 4年間を見通した指導と評価について研修を進 め、共通理解を図る。	・「外国語の授業や評価について研修を深めることができた」で肯定評価80%以上	教職員アンケート	年度末	英語推進担当を中心に、NS、担任と協力しながら授業計画や評価を行うことができている。2学期からはさらにICTの活用を積極的に活用していく。	「外国語の授業や評価について、研修を深めることができた」では92%であった。英語研修や事前検討会で授業案を全教職員で考える研修を行ったり、NSと担任と授業計画や評価を行ったりすることで職員の英語の授業づくりへの理解を深めることができた。	E
	●児童の情報活用能力を高めるため、ICTを活用 した学習についての研修を進める。	・1~3年生「学校は、パソコンを学習に活用している。」、4~6年生「学校は、調べたり、まとめたり、発信したりする活動にパソコンを活用している。」で肯定評価80%以上	学校アンケート(児童	年度末	3年生以上で毎日パソコンにログインし授業で活用している。また、タイピング練習や、毎月持ち帰ってドリルパークに取り組んでいる。	「タブレットを使って学習を進めている」で肯定評価87%であっ 〇 た。パソコンの基本的な操作ができて、発表ノートやドリルパー クなどのアプリが活用できるようになってきている。	
心豊 か大変を基盤とした教育活動を 充実させ、豊かな人間性を育成する。	●学校行事や学級活動を充実させ、自他の良さ を認め合い自尊感情を高められる取り組みを行 う。	・「たてわり活動では、違う学年の子と協力して活動している」「自分のとくいなことをしっている」で肯定評価90%以上		年度末	たてわり遠足や月1回のたてわり朝礼を通し て違う学年の子と協力して活動している。	「たてわり活動では、違う学年の子と協力して活動している」では肯定評価94%であった。「自分のとくいなことを知っている」で84%であった。本校は児童数が少ないこともあり、みんなが学年を越え仲良くしている。また、生活の中からも自分や他者のことを理解しようとする姿勢が見られる。	
	●毎月、フォローアップ会議を行ったりiシステムを 活用したりして、各学級児童について情報共有 し、いじめの防止・早期発見に繋げる。	・「いじめは絶対してはいけないものだと知っている」肯定意見100%	学校アンケート	年度末	フォローアップ会議やiシステムを活用し、児 童の様子について情報共有している。	「いじめは絶対してはいけないものだと知っている」肯定意見は Δ 93%だった。フォローアップ会議やiシステムでの共有によりいじ めの防止につなげられた。	
規則正しい生活を送り、運動に親 しむ環境を整え、体力を向上させ、 運動することへの意欲を高める。	●なわとび検定を行う。	・各学年の目標級を達成する。	学校アンケート	年度末	未実施のため年度末に報告予定	各学年の目標達成率は1年生68%、2年生80%、3年生44%、4年 〇生55%、5年生15%、6年生4%であった。なわとび検定初年度であ るので、今年の数値を参考にして、来年度以降に活かしていく。	
	●規則正しい生活習慣を身につけさせるため、児 童や家庭の実態を把握し、食育や保健教育を行 う。	・食育や眠育、はみがきの重要性について、理解が深まったという肯定評価80%以上	生活アンケート	年度末	2学期に全児童に対して生活アンケートを実施し、児童や家庭の実態把握を行う。アンケートの結果を元に指導内容の検討し、食育や保健教育を行う。	【保健教育】 1・3・5年生に眠育を実施。「これからも早ね早起きをしようと思いますか」の問いに対して肯定的な回答が89%。はみがきの重 の要性や歯科受診についての歯科指導を全学年に行った。 【食育】 栄養教諭による訪問指導を各学年学期に1回実施。児童保健 給食委員会でおかずや牛乳の完食を啓発した。	
╗の実現に向け、4校で共通理解を │	★小中一貫教育担当や研修主任、生徒指導主 任が中心となって、中学校区の共通課題を見出 し、一貫した学習指導や生徒指導をめざす。	・「学校間で参観に行く機会を増やす」肯定評 価75%以上。	教職員アンケート	年度末	小中合同夏季研修を行い、講演会に参加した。小学校→中学校への参観を行い授業見学をした。	〇「学校間交流ができている」肯定評価77%だった。	

校長より(年度末)

定着し効果を上げてきている。②については、司書教諭による蔵書の管理や図書委員会の児童による読書推進の取り組みが貸し出し数増加につながった。③についても養 者として見守っていきたい。 護教諭による特別授業などで注意喚起を行ってきている。どの取り組みも粘り強く取り組んでいく必要があると考えている。

学校関係者評価者から(年度末) 子どもたちは素直な子どもが多く、学習時も粘り強く、昨年度に引き続き、落ち着いて取り組むことができているように感じる。なわとび検定など新たな取り組みも ①基礎学力の定着、②読書の推進、③規則正しい生活習慣の定着が本校の課題と考えている。 子どもたちは素直な子どもが多く、学習時も粘り強く、昨年度に引き続き、落ち着いて取り組むことができているように感じる。なわとび検定など新たな取り組みも ①については、授業改善に効果的な事前型研究授業を全職員で行い、分かりやすい授業を日々研究し続けてきた。また苦労が形に現れやすい本校独自の漢字・計算検定も 始まり、子どもたちが楽しそうに取り組んでいる姿がよかった。学力面・生活面などの課題はまだまだあるが、これまでの取り組みとともに、引き続き、地域・保護